

お米甲子園

いつもお米を買ってくださる皆さん
お元気ですか。今日は「お米甲子園」につ
いての、お知らせです。

兵庫県では平成十六年から「お米甲子
園、兵庫のおいしいお米コンテスト」
を開催しています。

農家は自由にこのコンテストに応募
することができます。コンテストは、予
選と本大会からなり、予選では、サンプ
ルとして提出した玄米を食味計で測定
し、県下十二ブロックの一位が本大会に
進めます。この中から上位四点を選出し、
炊飯したご飯を審査委員が食べ比べ、食
味の優劣を決めます。

平成十九年初め、お米甲子園に参加す
ることに決めました。それは、自分が作
るお米は日本で一番美味しいと思ってい
ます。皆さんにも美味しいと評価いた
だいています。しかし、具体的なデータ
は持っていなかったため、どの程度の数
値であるのか知りたくて、参加を決めま
した。

二月、例年どおり地力アップのため、
長谷川牧場さんに、十アール当り二トン
の牛糞堆肥の散布をお願いしました。長
谷川牧場さんでは、畜舎に粃殻を粉碎し
たものを敷き、牛糞と共に回収していま
す。粃殻には土着微生物が多く着いてお
り、堆肥醗酵場に一メートル程に積み上
げ、ゆっくり攪拌し醗酵を進めると、良
質の醗酵堆肥が出来上がります。私は、
ぶどう園にも、二トン投入しました。

堆肥を投入した田はすぐ耕運し、土中
でゆっくりと熟成させます。その後四月
と田植え前の五月末の二回、トラクター
で耕し田植えを待ちます。

春、気温が上がってくると、雑草が芽
を出してきます。農家の一番の大敵は、
雑草と病虫害です。四月末、世間は行楽
の真只中、一回目の畦草刈です。草刈は
エンジン付の肩からの、吊り下げ形の草
刈機で行います。刈刃を左右に振りなが
ら少しずつ前に刈り進めます。刈刃に合
わせ腰から体全体を左右に振ります。ゆ
っくりと作業をすれば良いのですが、少
し急いでエンジンの回転数を速く、刈刃
の振りを速くして作業をすると、その夜
は、体がメキメキ、肩がぱんぱんに張っ
て体中が悲鳴をあげます。私にとつて、
農作業の中でも厳しい作業の一つです。
この草刈作業は、田植え前の五月末と以
降稲刈りの終わる十月まで月一回行い
ます。

六月九日、田植えを行いました。私達
の地区は川が通っていない為、貯め池に
よる給水をしています。私達の地区には、
四つの溜池と、隣の地区との共用溜池が
二つあります。

田への給水は当番制で、耕作者がクジ
により順番に勤めます。当番に当たった
人は、朝六時から夕方六時まで、全ての
田に順番に水を入れます。この年七月は
記録的な長雨でした。日照不足が心配さ
れましたが、八月以降は暑い夏が続き、
台風の上陸も無く、十月中旬には、収穫
を迎えました。

収穫を終え、お米をJAに出荷いたし
ました。

JA出荷米の検査結果は二等でした。
原因はカメ虫による被害があるとの事
でした。確かにカメ虫の防除はしません
でした。一袋三十キロ四千八百円。十ア
ール換算七万二千元。七十アール耕作で
五十万四千円。冬、寒さに凍えながら、
トラクターでの耕運、夏、玉の汗を流し
ながらの草刈、粃擦りで痛い腰をかばい

ながら三十キロのお米の運搬、その結果が五十万円。この中から苗、肥料、トラクターや乾燥機等の燃料代、年一日しか使わない田植え機、数日しか使わない、コンバイン、乾燥機、粃擦り機の償却費を引くと残るお金はごくわずか。農家はどうして生活していったらいいのでしょうか。

多くの機械のおかげで昔に比べ、米作りは大変楽になりました。しかし機械代に悲鳴をあげています。コンバインが古くなったので展示会に行くと、本体二百万、結束器三十万、粃の運搬台二十万。コンバインを買い換えると二百五十万円、このお金はどこから出てくるのでしょうか。

お米作りをやめることを時々考えます。しかし、お米作りをやめても、休耕となつた田の草刈、耕運はしなければなりません。隣の耕作者の方々に迷惑をかけるからです。又、溜池には、灌漑用の水が送られて来ている為、耕作をなくとも水代と工事費を支払わなくてはならないのです。どちらを向いても困難なことばかりです。

出荷と同時に、社農林事務所に封筒一杯の玄米を持参、お米甲子園に応募いたしました。後日、お米甲子園の結果が郵送されてきました。

私が参加したヒノヒカリの部では、食味検査の結果、県下参加者七十二人の成績は、最高値百、平均値七十六、最低値六五。私のお米は七八でした。平均値の少し上、もう少し良い値が出るものと思つていただけに少し残念な結果でした。本当に機械で味がわかるのかな。農薬の散布も控えたのに。

世間では、魚沼産コシヒカリが美味しいお米の最高宝として、生産量以上の量が出回っています。又、市場では美味し

いといわれるお米が売れています。しかしJAへの出荷は見た目です。化学肥料を沢山投入し、農薬もどっさり散布し、沢山収穫した、見た目美しいお米が良いお米として受け入れられます。ほんとうの美味しいお米は、その土地にあった品種を、昔ながらの堆肥を散布し、土作りを行い、刈取り前には窒素成分がちょうど切れるような作付けを行い、完熟した後、刈取り。天日でゆっくり乾燥したお米が美味しいのです。

米価の下落が続いています。農家は所得を確保する為に、

- 一、 耕作面積の拡大。
 - 二、 より高い価格での販売。
 - 三、 収穫量の増大。
- を考えます。

一の耕作面積の拡大は、減反率四十数%の枠があるため、簡単に作付けを増やすことはできません。

二のより高い価格での販売は友人知人やネットでの自己販売があります。最近、この方法で販売をされる方が増えてきました。

三の収穫量の増大はもつとも取組み易い項目です。化学肥料を沢山投入し、よく繁った稲を作ります。化学肥料を沢山入れると、軟弱な稲になりやすいため、病気や害虫の被害にあいやすくなります。この為、農薬もどっさり散布します。JAも肥料や農薬の売上を上げるため、施肥計画には肥料を沢山散布するように指導します。JAの施肥計画の三十%減が適正量だという声も聞きます。

化学肥料を沢山入れ、農薬をどっさり散布したお米が本当に安全で美味しいのでしょうか。

今、食の安全が声高に言われます。しかし安全をお金で買うという意識がまだまだ無いように思います。ご飯一食の

値段は約二十五円です。一日三食で七十五円、ボトル一杯百二十円のお茶を買う時代、どこかおかしいと思います。

今年は、堆肥を入れませんでした。その代わり、レンゲと菜の花を蒔きました。春には、美しい花が咲きます。レンゲも菜の花も緑肥としての効果が大きく、地力アップに大きく貢献してくれると思っています。美しい花が咲き、美味しいお米が収穫できる。喜びと楽しみのある、お米作りをめざしていきます。皆さん今年は、レンゲ菜の花米をお届けします。

○八年三月八日

（現在はお米は販売していません）